

令和元年度 第4回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和2年2月28日（金）午前10時00分～11時57分

○場 所 能代市役所 新庁舎3階 会議室9・10

○次 第

3 能代高等学校「地域課題解決型プロジェクト学習」の発表について

資料1 及び能代高校生による発表

※別添資料有り

4 少子化要因調査・分析事業の中間報告について

資料2

※別添資料有り

（説明：国立社会保障・人口問題研究所 佐々井司室長）

- ・ 定量的なデータから能代市の状況を見ると、未婚者割合が高く、第1子の（有配偶）出生率が高い。三世代同居の割合が比較的低く、全国的に見ても、出生率に対してマイナス要因である。第三次産業就業者割合が高く、サービス業を含め、比較的産業構造の転換した後の産業転換にうまく適用されているのかなという印象を受けた。女性の管理的専門的技術的職業従事者割合が高い。これは非常に特徴的。
- ・ 比較的大都市の特徴が、能代市の数値から見られる。
- ・ 都会から戻りたいと考えている人がいる一方で、昔ほど地元意識が強い学生が減ってきてつつある、というのが懸念材料。
- ・ 子どもには1度は外の世界を経験して、あるタイミングで戻ってきてもらいたいと考えている親が多い。
- ・ 能代市は第1子が減っている。結婚と第1子の関係は密接で、結婚が減ると第1子に影響する。能代市は、第3子以上の少なさが特徴。離婚率が意外に高い。家族の形態が非常に多様で、三世代同居が少ない一方で一人暮らしが多い。
- ・ 子どもが3人以上いる家庭は、祖父母との同居もあるが、近くに住んでいて日常的な支援をしている家庭が多い。
- ・ 結婚に関して、昔は跡取りだから結婚しなければいけないという意識が強かったが、今はその意識が少ない。また、結婚したいという意欲・願望はあるものの、自分から積極的に行動を起こしていない人が多い。意識上も行動上も結婚から離れている印象である。
- ・ 若い人も含め、自立した女性が多いことが、未婚者の増加、結婚、子供が少

ないことに関係があるかもしれない。

- ・婚活イベントは、NPO法人をはじめ民間団体、個人の方々が主体的でユニークな取り組みを行っている。
- ・地元から少し離れた場所で婚活イベントを開催すると参加者が増えたり、婚活を意識させない、さりげない取り組みの方が、若い人や、女性が集まるという意見も聞かれた。
- ・個人的な提言だが、自立していて、大都市的な感覚をもっている方が多い。何でも自分でやれる方が多く、周りから声をかけにくいことも多いかもしれない。ちょっと背中を押してあげる、さりげないおせっかいといったことができる事業や施策というのにも必要かもしれない。

【主な意見と対応】

意 見 等	対 応
大都市には地方から来る人が多く、昔から東京に住んでいる人とは違う。隣の人とのつながりが薄い、そういうことなのか。	そこまで極端な結論にはならないかもしれない。ただ、自分たちで、何とかしようと、そういう意識が強いのではないか。数値で見ると、未婚率が高く、出生率が低い、三世代割合が低いという傾向が、大都市と同じため、大都市的な特徴という表現をした。
第1子の有配偶率出生率が高いとはどのようなことか。	有配偶というのは、結婚されている方のこと。有配偶者を分母に計算した出生率があるが、結婚されている方の中では、能代市は第1子が多いが、第2子、第3子を産む方は割合としては少ない。

○案 件

- ・「第2期能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要（案）について

資料3による説明

【主な意見と対応】

意 見 等	対 応
人口ビジョンでは令和 42 年の人口を 25,700 人と設定しているが、これは、行政機能が保てる人口の分岐点か。	分岐点ではない。行政機能を維持するための人口ではなく、様々な人口動態を分析し、第1期に設定した人口を引き継いだ人口である。
関係人口について、転勤等の方の統計はあるか。住民票の人口と、転勤等の方の人口を合わせ、全体でどのくらいによって施策が変わる。関係人口と産業は非常に密接な関係があり、目標設定により、地域の消費や将来予測が見えてくる。	転勤と関係する統計については調べてみる。重要業績評価指標（K P I）は素案と関係するため、次回提示したい。数値については、率でいえばパーセントだけではなく、分母、分子の関係も把握し、推移も見えていく必要があると考えている。

- ・「第2期能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定スケジュールについて

資料4による説明

質疑無し